

平成31(2019)年度 江戸川区立西小岩小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	学びかはやけ西小岩の子 ・考える子 ・がんばる子 ・やさしい子 ・健康な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・学ぶ楽しさ、教える喜び、案じて通わせられる信頼のある学校 ・確かな学力、豊かな心、やり抜く力が身に付いた児童 ・「子どもの健全な成長」を念頭に置き自らの職責を果たす教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果> 落ち着いた学級経営ができる教員が増え、児童間の大きな問題もなく学校運営ができた。教育課題推進校として組織として推進できた。</p> <p><課題> 新たな教育課題についての理解を深め、新指導要領実施に向けた準備を整え授業改善及び働き方改革を推進すること。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・「心と体を自ら鍛え、地域で成長」をねらいとした小中連携カリキュラムを作成し、系統的に取り組んでいく。	・年間7回の連携の場を持ち、教員・児童生徒が連携を図る。教員アンケートで連携が図れたが80%以上	B	B	○小中連携カリキュラム「North West & Fourth」を作成し、4月に保護者へ地域に配布する。	A	・小学校と中学校が連携プログラムを基に地域も協力していきたいと思う。地域の中の学校を意識していきたい。	・小中連携カリキュラム等に基づき、地域との連携を深めていくとともに、中学校との本当の連携を考えて実践していく。
	外国語活動の推進	教育課題実践推進校として全学年・学級が研究授業に取り組み、その成果を説明。	・各unitごとに計画を立て授業検証する。 ・説明会を実施して実践について報告をする。 ・年間指導計画・評価計画を作成する。	・12月、2月に説明会を実施。 ・11月までに学年1回の研究授業実施。 ・教員アンケートで外国語活動・外国語の授業に自信がもてるようになったが80%以上	A	A	○教育課題実践推進校として説明会を行い区内の小中学校へ外国語の進め方について方向性を示すことができた。	A	・外国語も大事にしながら他教科の学習もさらに大切に。子どもたちが楽しく学べるとよい。	・外国語を専科とし、より系統性のある指導を実施する。
	縦割り班活動の充実	異学年交流の推進	・縦割り班活動の日常化	・年間8回の縦割り班遊び。 ・年間3回のロングの縦割り班活動	A	A	●高学年のリーダーシップの育成。	A	・放課後、子供が思い切り遊ぶ姿を見なくなった。学校で縦のつながりを考えて取り組んでいることはよいと思う。	・奉仕活動等も取り入れていきたい。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	・ICT研修の実施。 ・プログラミング教育についての理解と年間計画の作成。	・年間3回、ICTアシスタントを活用した研修の実施。 ・年間5回の校内ICT研修の実施。	B	B	○プログラミング教育に関して、教員の理解を深め、年間指導計画を作成した。 ●地域・保護者への理解を深める。	B	・プログラミング教育とはPCを扱うことだけではないことが理解できた。	・次年度の学校公開や土曜授業でプログラミング教育を公開していく。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	・巡回指導員・SC・専門員との連携を図り児童を見とる。(生活指導全体会・生活指導夕会参加) ・特別支援教育について理解を深める。	・校内委員会を開き(3回)、指導・助言を得たり、保護者と話し合った連携した取り組みをする。 ・特別支援教育についての研修会を2回実施。	B	B	○校内委員会の開催、巡回指導員による研修を実施。 ●保護者に特別支援教育について理解と児童の成長のために協力を得る。	B	・エンカレッジルームを公開しているので教室の中が見られた。もともと、保護者・地域が理解できるとよい。支援を必要とする子どもたちが多くいることにも驚いた。	・継続して保護者会、学校公開等で積極的に教室を公開したり、説明をしたりする。
	学年経営・分掌運営の充実	3つのプロジェクトチーム(学力向上・体力向上・健康支援)による企画・提案・運営・改善	・脱前例踏襲、判断基準は子どもを念頭に企画する。実施後は改善案をすぐ作成し、小さなPDCAに取り組む。	・行事や取組ごとに改善案の作成100%	B	B	○改善案作成。	B	・地域・保護者の声に必要以上に振り回されることなく、学校が教育活動を進めているので良い。	・年度末に学校教育活動の変更点を知らせる。
	校内OJTの充実	「西小岩スタンダード」の徹底と主任によるOJTの推進	・授業を見合って自己研鑽に励む。 ・主任教諭の授業公開	・年間3回の授業参観習慣を設け学び合う。 ・主任教諭は学期に1回は授業を公開する。 ・「西小岩スタンダード」を意識した教員が100%	B	B	○取り組みは様々な方法ができて推進できた。主任教諭の授業公開の数が増えた。 ●授業参観週間の充実を図る。	A	・先生たちが互いに学び合っている力が付けたことが、子どもたちの学力向上につながるので今後も麻なうことを継続してほしい。	・学年で子どもを見ていく姿勢を崩さずに次年度も取り組んでいく。
確かな学力の向上	確かな学力向上推進プランの実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	・年間35回の補習の実施 ・基礎基本定着のための朝学習(ステップタイム)の実施 ・学力向上推進プランに沿った授業改善及び学力調査の分析とプランの改善	・補習でわかるようになった、ステップ学習でできるようになったという児童が85% ・学力調査の分析から実感に合った学力向上推進プランの改善を図る。(9月中に分析、10月に推進プラン改善提案)	B	B	○補習・ステップ学習でわかるようになった児童が90%となった。 ●学力向上推進プランを意識した授業改善にさらに取り組む。	B	・小学校は細かく指導してくれているのがありがたいが、小学校のうちに自分で学ぶ力を付けていくことが大事だと感じる。	・学力向上推進プラン、新指導要領を基に、どのような力をさらに伸ばしていくべきか明確にして授業改善に臨む。	

